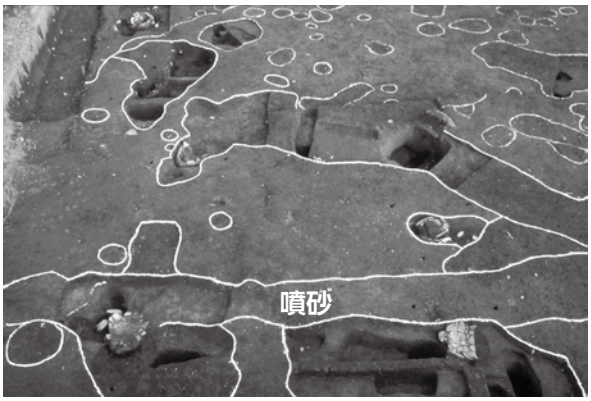
発掘された地震跡

北仰西海道遺跡は、今津町北仰集落の東の水田（現在はグラウンド）に位置しています。昭和59年度から61年度にかけ実施した発掘調査で、縄文時代後期から弥生時代後期にかけての大規模な集団墓地が発見されました。

この調査のなかで遺跡の中心部分とみられる位置から、最大幅95センチ、長さ31メートルの南北に走る砂の詰まった溝状の遺構が発見されました。溝の内部は細かい砂で満たされ、遺物を全く含まず、50センチ程掘りさげると末広がりになっており、その正体について首をかしげていました。



北仰西海道遺跡縄文墓を切る噴砂

昭和61年5月、江戸時代の地震史料を調べに今津町を訪れていた当時の通産省　地質調査所の寒川旭さんに偶然出会い、雑談のなかで「遺跡の中から地震の跡がでるとしたら、どんな形になりますか」と尋ねてみました。いくつかの答えの中に「砂の詰まった割れ目」があり、ピンときました。すぐに二人で現場に向かい、地震時の液状化現象による「噴砂（ふんさ）」であることが判明しました。さらに遺跡は一千年以上と長期にわたり営まれており、その中心部で検出されたことから噴砂によって引き裂かれた遺構や、地震後に噴砂上に営まれた遺構などがあり、おおよその地震の発生時期を特定することができました。この調査がきっかけで県内をはじめ全国の遺跡から地震の痕跡が次々に見つかるようになりました。遺跡の発掘調査の中で地震の痕跡を調べることによって古文書などの記録のない時代の地震や、古文書等に記された地震の規模や被害状況などを探るのに非常に有効であるとして昭和63年には「地震考古学」という新しい研究がスタートしました。

平成7年1月17日に起こった兵庫県南部地震以降、国は全国の活断層の活動履歴調査を行っています。高島市内でも琵琶湖の西岸をほぼ全域にわたって南北に延びる長さ約60キロメートルの西傾斜の逆断層である琵琶湖西岸断層帯の酒波断層や饗庭野断層、花折断層などの調査が行われました。

最新の研究成果では、2つの断層とも最新の活動に関する限り、北部と南部では活動時期が異なっていると考えられています。

高島市内にも大きな被害があった寛文2年（1662）の地震は花折断層北部が、元暦2年（1185）の地震は琵琶湖西岸断層帯南部の堅田断層などが活動したと考えられています。饗庭野断層などの北部については、最新の活動は3000～2400年前と考えられており、北仰西海道遺跡で検出された噴砂もこの時に発生した可能性があります。

平成15年6月に発表された琵琶湖西岸断層帯でマグニチュード7・8級の地震の起きる可能性を向こう30年間に0・09～9％の確率とされていましたが、平成21年8月に見直しがなされ高島市域の北部の確率を1～3％、大津市域の南部をほぼ0％と改訂しています。

問 文化財課
☎（32）4467

北仰西海道遺跡航空写真

編集雑感

今年も暑い夏がやってきました。日中外に出ると、汗が噴き出て、ちょっと動くだけでバテてきます。皆さん体調は大丈夫でしょうか？ 表紙の写真は、朽木で行われた鮎の放流の様子。元気いっぱいな子どもたちに交じって、川に足をつけながら撮影しました。冷たい川が大変心地よかったです。今年は千年に一度の猛暑になるという話もあるそうです。熱中症にならないよう気を付けながら、夏を乗り切りましょう。（S）

広報たかしま
平成25年 8月号 No.163
発行▼高島市　編集▼政策部企画広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地
☎0740（25）8000㈹
http://www.city.takashima.shiga.jp
t-info@city.takashima.shiga.jp

R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用。
PRINTED WITH SOY INK 大豆インクを使用しています。
不要になった広報誌は、「その他古紙」として古紙回収日に出してください。